

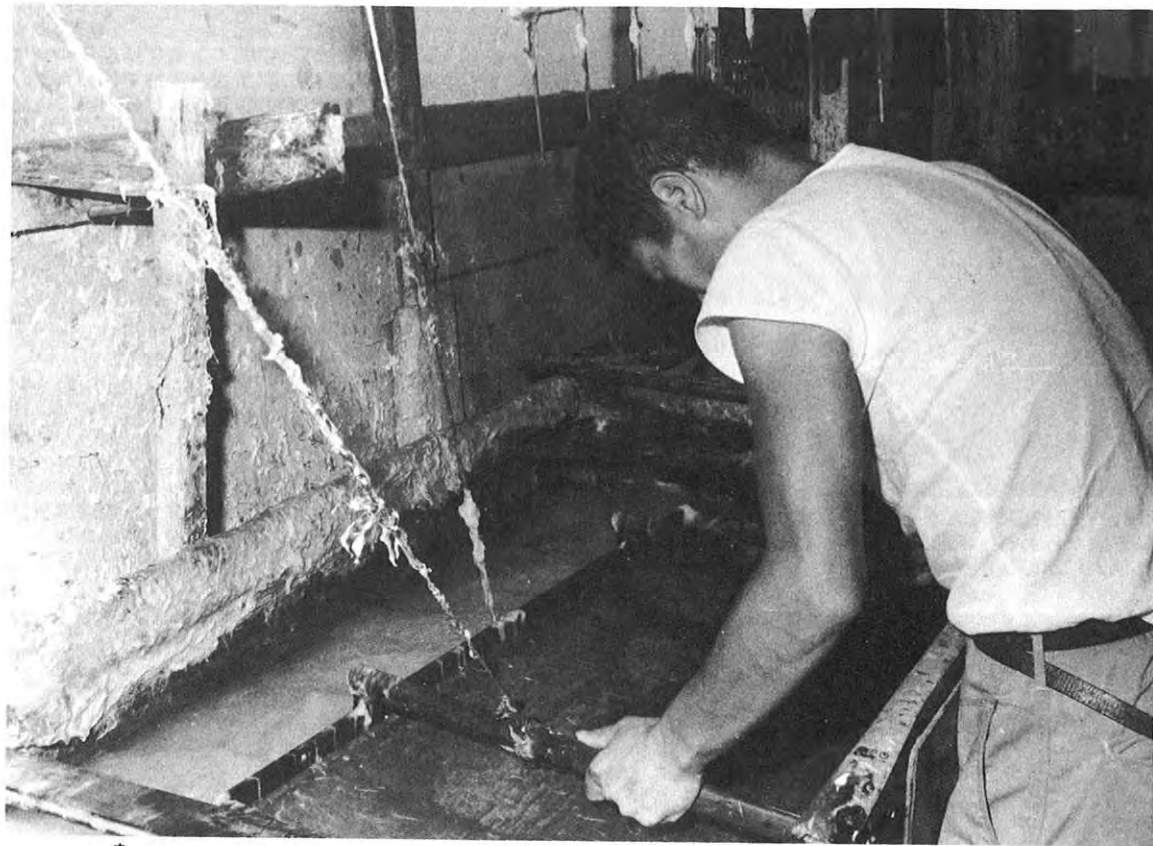
# 風土に根ざした

# 伝統文化を大切に

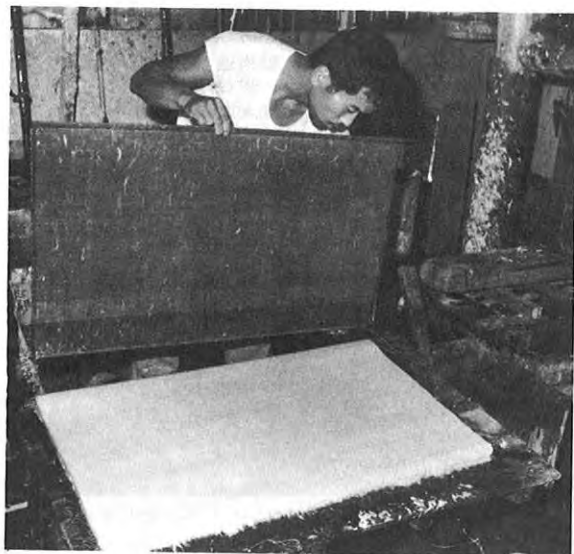
古来からの風土に根ざした勝れた文化社会的に価値のある遺跡、あるいは文化し、これをひとつの地域の産業として伸ではないでしょうか。

・伝統というものは大事にしたいものです。の保存。野趣に満ちた伝統工芸を掘り起こすこと。いずれも大変に意義のあること

## 伝 統 工 芸



▲ 和紙を漉く宮田さん



宮地和紙は、ひきが強く透き通るように白い。膚ざわりがよくチリ紙としても障子紙としても最高の紙である。宇土の張り子人形の素材ともなっている。  
八代市宮地町の宮田寛さん(四二)は県下で和紙を守る最後の人である。和紙づくりには多くの時間と労力がかかる。清流で楮(コウゾ)を洗いフネとミスで漉く。微妙な感覚で一枚々々漉いていく。繊維が絡みあって和紙が出来る。

## 宮地の和紙 — 八代市妙見 —

## 文 化 財

### ▼ 船山古墳の家形石棺



◀ 船山古墳全景

### 江田船山古墳

|| 国指定史跡 (玉名郡菊水町江田)

日本最古の文字として知られる銀象嵌の銘文をもつ大刀を出土した古墳が、船山古墳です。5世紀後半ごろ造られたと推定されます。

全長61mの前方後円墳で、周囲には溝をめぐるし後円部に横口式家形石棺があります。

明治6年、船山古墳が発掘された時、家形石棺の中から金銅製の冠・沓・耳飾をはじめ、鏡・玉類・馬具・武器・甲冑・須恵器など多量の副葬品が発見され、現在は国宝として東京国立博物館に保存されています。

### 清原の石製品 (玉名郡菊水町江田)

—— 県指定重要文化財 ——

船山古墳の西北約70mのところから石人と腰掛形及び家形の石製品が出土しています。

石製品は、九州の主要な古墳に分布し、もとは古墳の上に置かれていたものとみられますが、これは船山古墳の上にあったのか、あるいは消滅した古墳の上にあったのか不明です。

石人は、現在高さ60センチ、幅51センチで短甲(よろいの一種)を付けており、腰掛形石製品は長さ103センチ、家形石製品は屋根の部分が残っており、復元すると全長約1.2mあったろうと推定されます。これらにはいづれも丹塗りの痕がみられます。



▲ 清原の腰掛形石製品

### ▼ 清原の石人

